

令和4年度第1回消費生活eモニターアンケート調査

エシカル消費等について

目 次

第1章 調査の概要	… P 2
1 調査目的	
2 調査方法	
3 調査期間	
4 調査対象	
5 回答者の属性	
第2章 調査結果	… P 3

【以下のホームページも是非ご覧下さい。】

◎ つながる・かながわ消費者教育－かながわ消費者教育サポートサイト－

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/r7b/edu/index.html>

第1章 調査の概要

1 調査目的

エシカル消費の認知度・理解度等について調査し、今後の啓発活動など消費生活行政の参考とするため。

2 調査方法

インターネットを利用したアンケート調査（全16問）

3 調査期間

令和4年11月11日（金）から11月20日（日）まで

4 調査対象

消費生活eモニター：332名 回答者：240名 （回答率 72.3%）

5 回答者の属性

年齢	18～29歳	9名
	30歳代	24名
	40歳代	51名
	50歳代	72名
	60歳代	60名
	70歳以上	24名

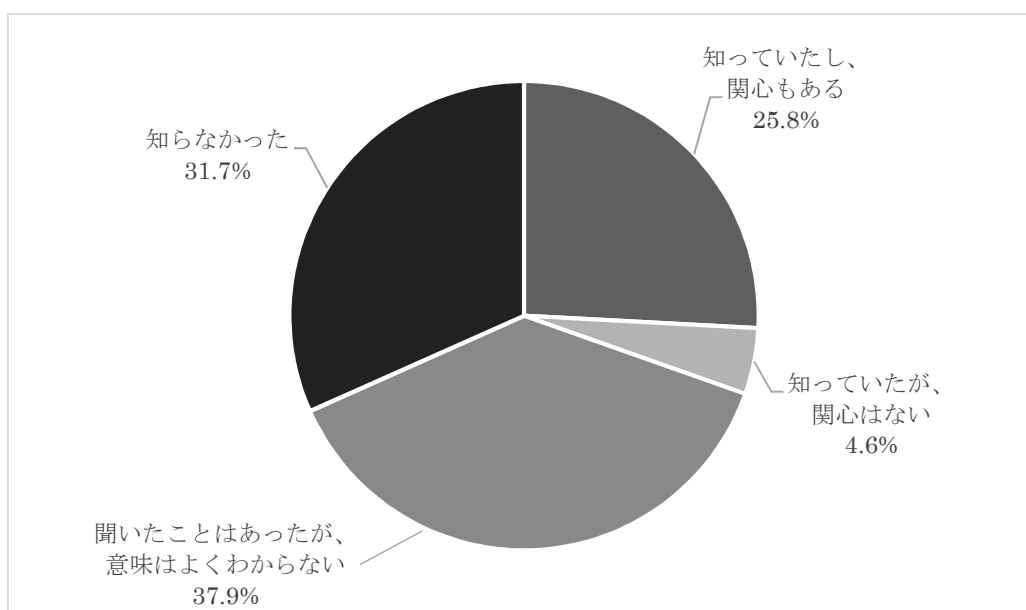
第2章 調査結果

- ・複数回答のある設問では、比率の合計が100を超える場合があります。
- ・未回答者がある場合、比率の合計が100に満たない場合があります。

エシカル消費について

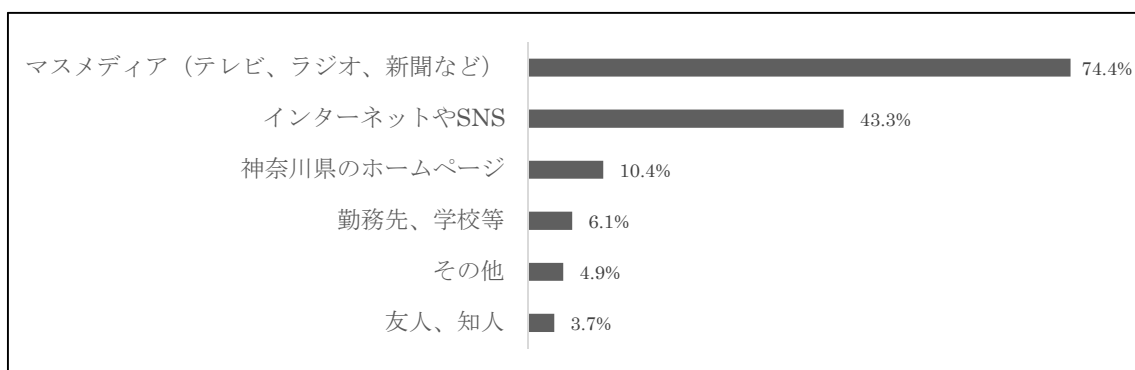
Q1 「エシカル消費」を知っていましたか。

- ・「知っていたし、関心もある」「知っていたが、関心はない」「聞いたことはあったが、意味はよくわからない」と回答した方が合計で約7割



Q2 【Q1で「知っていたし、関心もある」「知っていたが、関心はない」「聞いたことはあったが意味はよくわからない」と回答した方におたずねします。】
「エシカル消費」をどこで知り（聞き）ましたか。（複数回答可）

- ・「マスメディア（テレビ、ラジオ、新聞など）」が7割以上で最多

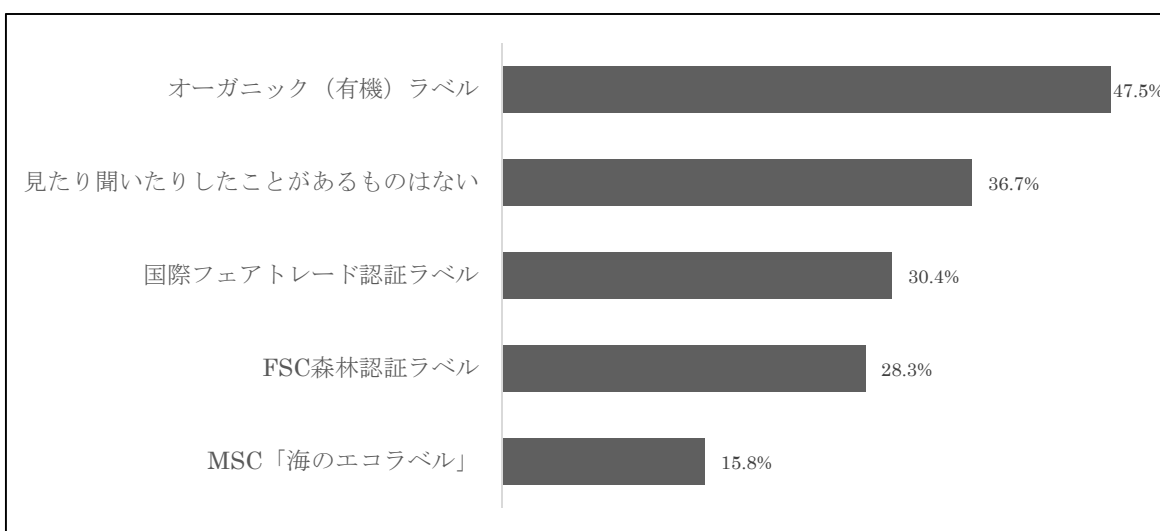


○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

- ・利用している生活協同組合
- ・子供の大学
- ・コンビニの商品に貼付されていたシール
- ・神奈川県広報 など

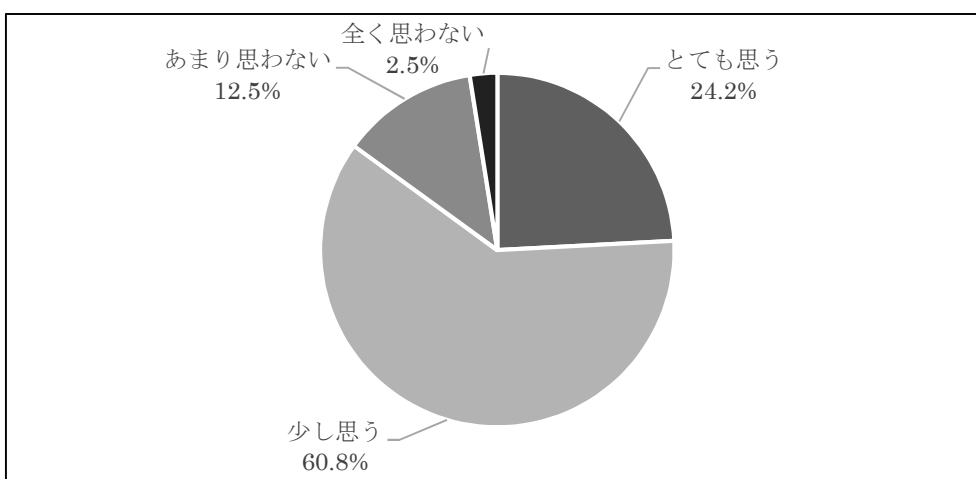
Q 3	エシカル消費に関連した以下のラベルについて、見たり聞いたりしたことがあるものを選択してください。（複数回答可） ※各ラベルについては、以下の URL をご覧ください。 http://www.pref.kanagawa.jp/documents/13706/kaimono_r4.pdf
-----	---

・「オーガニック（有機）ラベル」と回答した方が約5割で最多



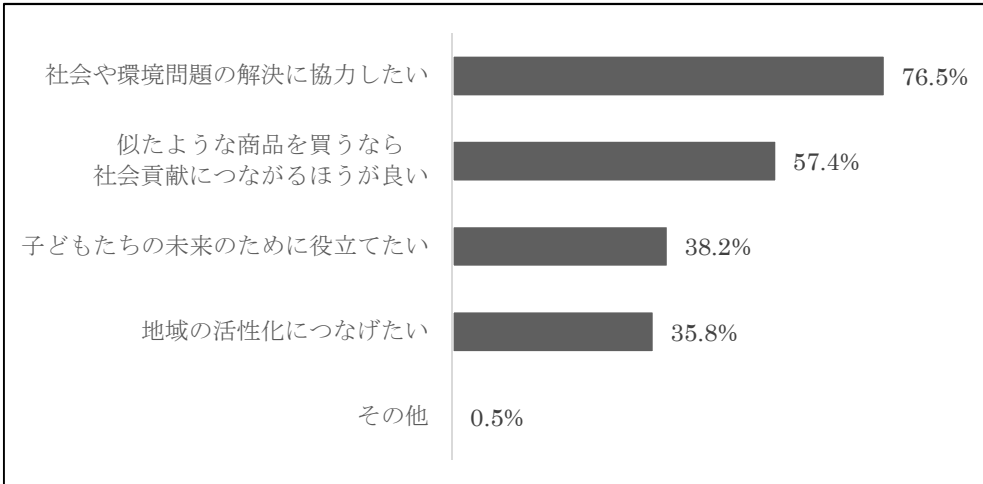
Q 4	エシカル消費につながる商品、サービスの購入を検討したいと思いますか。
-----	------------------------------------

・「とても思う」「少し思う」が合計で8割以上



Q 5	<p>【Q 4で「とても思う」「少し思う」と回答した方におたずねします。】 その理由として当てはまるものはどれですか。（複数回答可）</p>
-----	--

・「社会や環境問題の解決に協力したい」と回答した方が7割以上で最多

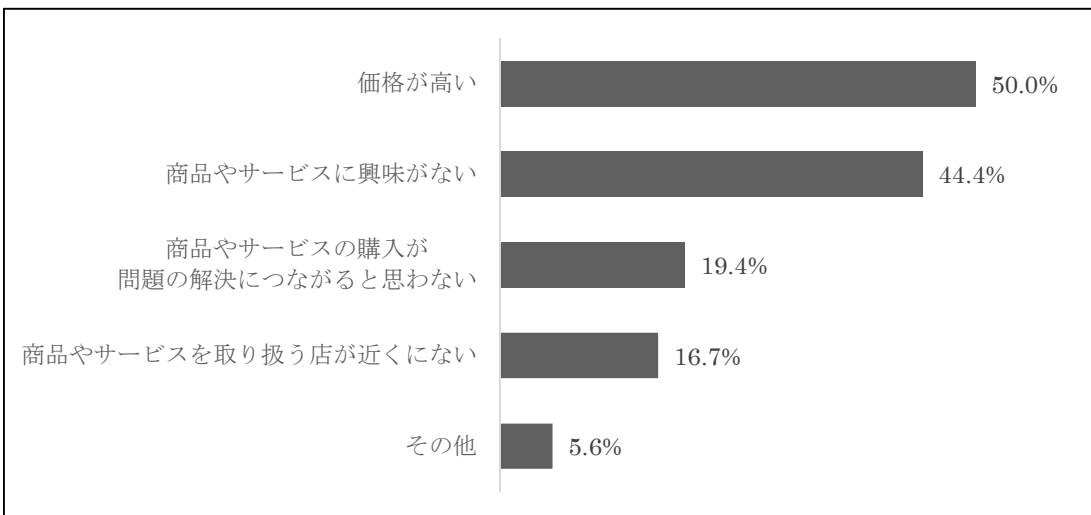


○「その他」の回答（抜粋・要約）

- ・一部の海外製の食料品は安全性に疑問があり、信用できない。

Q 6	<p>【Q 4で「あまり思わない」「全く思わない」と回答した方におたずねします。】 その理由として当てはまるものはどれですか。（複数回答可）</p>
-----	--

・「価格が高い」と回答した方が5割で最多

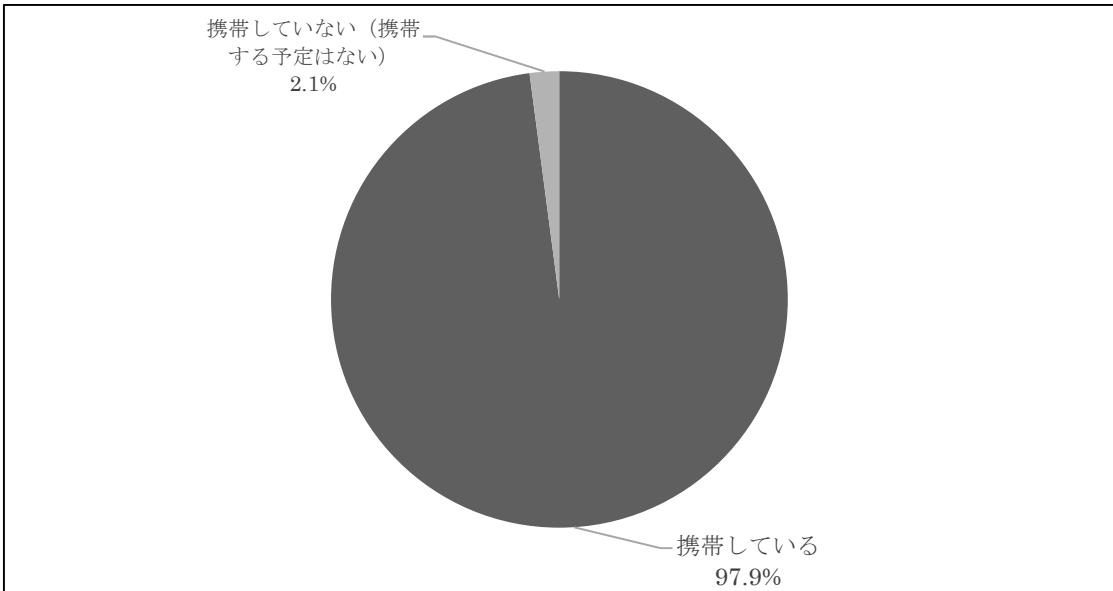


○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

- ・内容がよく分からない。
- ・欲しい物と同等品のエシカル消費につながる商品があれば購入を考える。

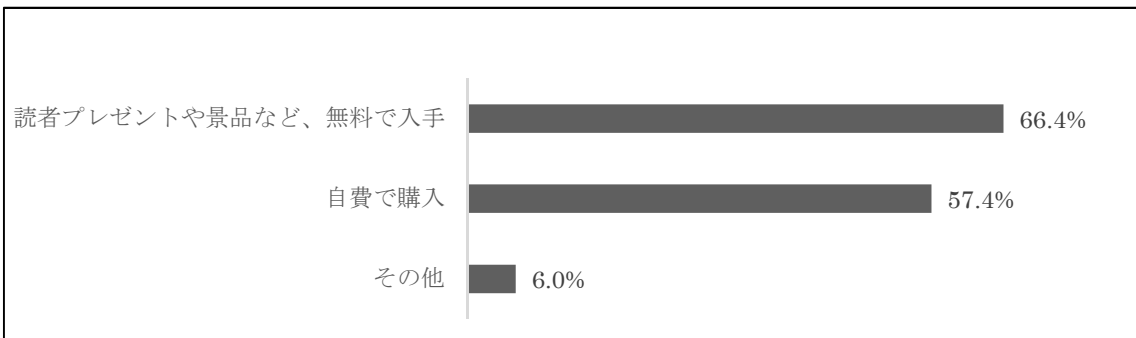
Q 7 買い物時にマイバッグ（エコバッグ）を携帯していますか。

・「携帯している」が9割以上



Q 8 【Q 7で「携帯している」と回答した方におたずねします。】
どのような方法でマイバッグ（エコバッグ）を入手しましたか。（複数回答可）

・「読者プレゼントや景品など、無料で入手」が「自費で購入」よりやや多い



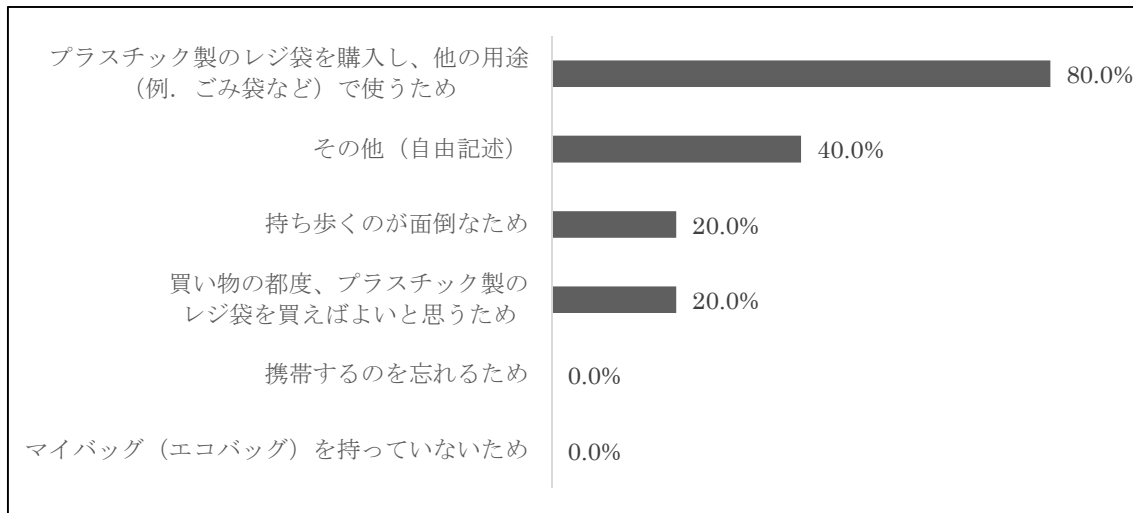
○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

- ・手作り
- ・以前買い物をした際にもらったポリ袋(数回使用后、ゴミ袋として利用)
- ・家族や友人からのプレゼント
- ・マイバッグの導入により万引きが増え、店舗側の対策が難しいのでレジ袋有料化の政策は廃止してほしい など

Q 9	<p>【Q 7で「携帯していない」と回答した方におたずねします。】</p> <p>携帯していない（又は使わない）理由として当てはまるものはどれですか。（複数回答可）</p>
-----	--

・「プラスチック製のレジ袋を購入し、他の用途（例、ごみ袋など）で使うため」

が8割で最多

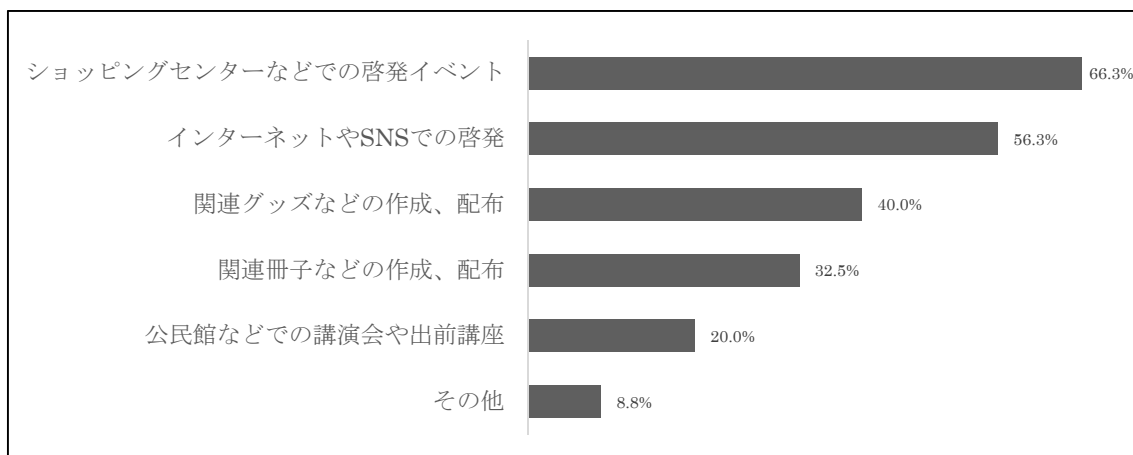


○「その他」の回答（抜粋・要約）

- ・万引きと誤解されないため
- ・環境保全のためにレジ袋に課金するのは筋違いであり、反対 など

Q10	<p>エシカル消費を促進するために、どのような取組みが効果的だと思いますか。（複数回答可）</p>
-----	---

・「ショッピングセンターなどでの啓発イベント」が6割以上で最多



○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

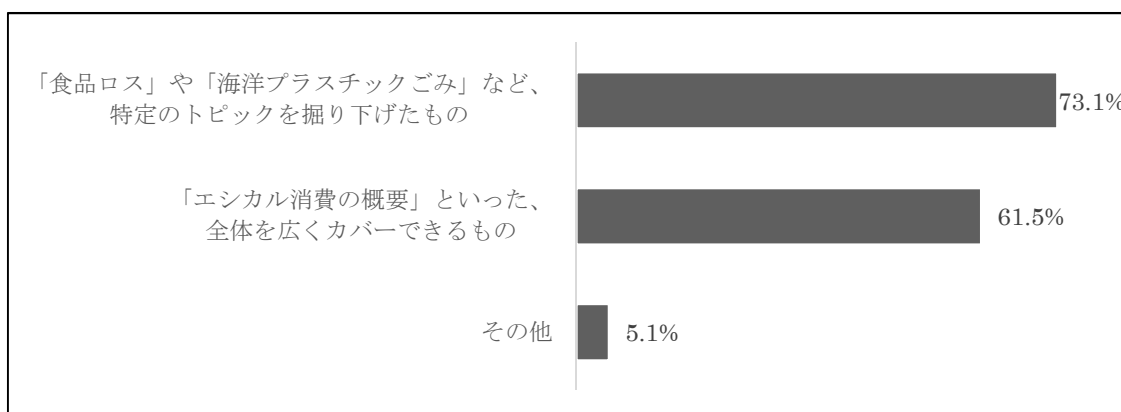
- ・学校での教育など、子どもへの啓発
- ・割引、キャンペーンに参加できるなどのインセンティブが得られるもの

- ・行政の支援による、販売店舗での広報
- ・食事のトレーに情報を載せたり、魅力的な YouTube を配信したりするなど、子どもと一緒に啓発することが効果的だと思う。
- ・関心のない人は何をしても届かない。エコバックのように袋代が節約できるなど直接自分に影響の出る取り組みを考える。
- ・グッズの配布などは、いただいても結局捨てているので心が痛い。グッズや紙の配布はもう止めてほしい。

Q11 【Q10で「関連冊子などの作成、配布」と回答した方におたずねします。】
 どのような内容であれば、読んでみたいと思いますか。（複数回答可）

- ・『食品ロス』や『海洋プラスチックごみ』など、特定のトピックを掘り下げたもの

の」が約7割



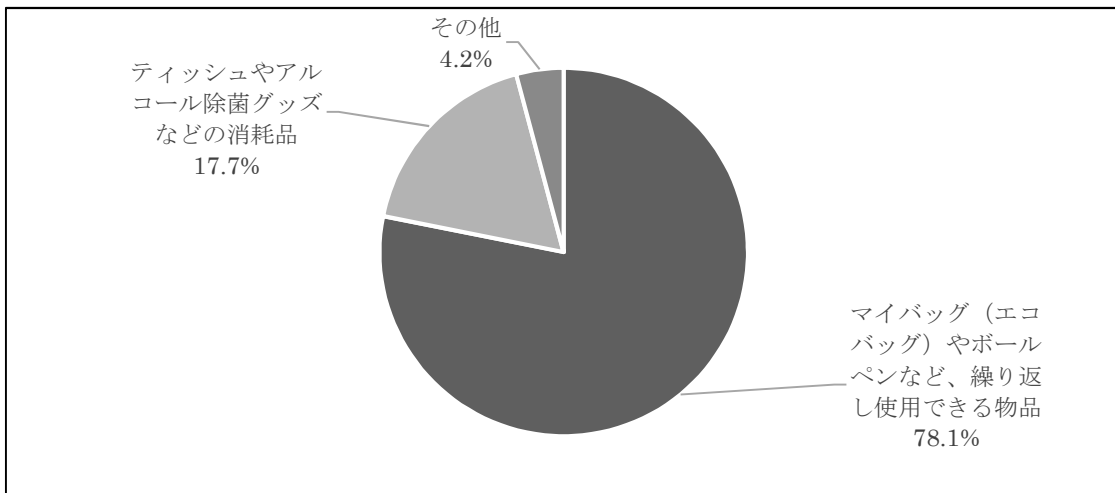
○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

- ・簡単に出来ること、それによって何がどう良くなるか、数値で表されると分かりやすく、やる気も出そう。
- ・エシカル消費や環境問題に取り組むために個人ができる具体的な方法
- ・県や市など、公共機関の取組み状況
- ・結局大多数がごみで捨てられるため、冊子は不要

Q12

【Q10で「関連グッズの作成、配布」と回答した方におたずねします。】
最も使う機会が多いと思うグッズはどれですか。理由も合わせてお答えください。

・「マイバッグ（エコバッグ）やボールペンなど、繰り返し使用できる物品（自由記述）」が約8割



○繰り返し使用できる物品を選んだ主な理由（抜粋・要約）

- ・毎日使用するものなので、エシカル消費の意識が定着すると思う。
- ・日常的に使用する物だから。
- ・常に必要なものだから。長く使うことによって、意識も高まるから。
- ・使用する度にエシカル消費について気にするだろうし、エコバックなどは人目につくなどして広告にもなるのではないかな。

○消耗品を選んだ主な理由（抜粋・要約）

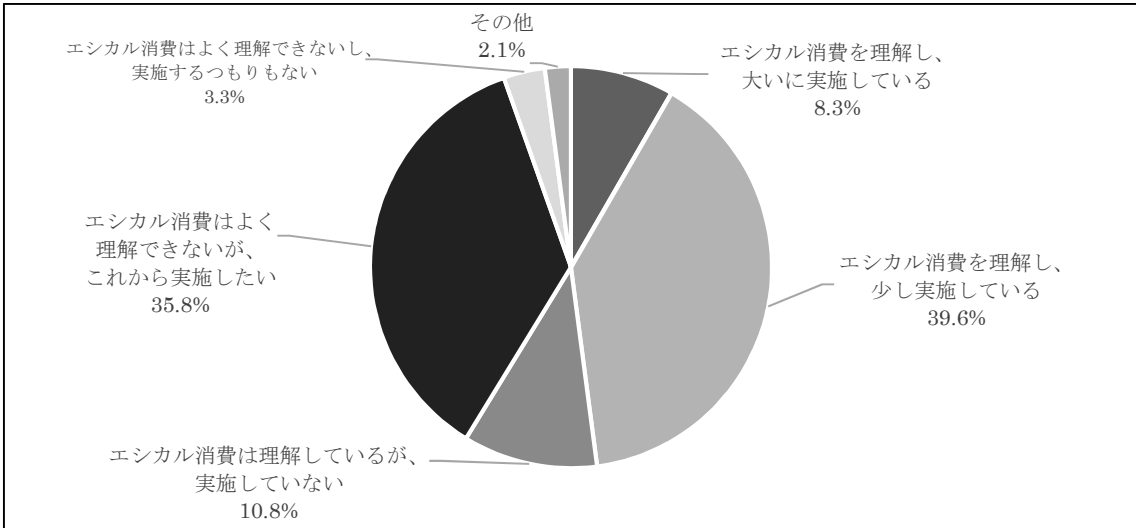
- ・何個あっても困らないから。
- ・マイバッグは配布している機関が多く、すでに複数持っているから。
- ・あって困るものではないし、消耗品なので貰えると嬉しいので喜ばれると思う。必然と視野に入り意識向上に繋がると思う。

○「その他」の回答（抜粋・要約）

- ・環境に良い商品を購入すると使用できるクーポン券、割引券など
- ・エシカル関連品
- ・エコバックは普及しているので、エシカル消費に関連するラベルのついた商品（ノート、バイオマス表示のついたペットボトル飲料など）を配布し、ラベルの認識の普及を図る。
- ・結局大多数がごみで捨てられるため、グッズは不要

Q13 エシカル消費に対する意識について、当てはまるものはどれですか。

・「エシカル消費を理解し、少し実施している」が約4割で最多



○「その他」の主な回答（抜粋・要約）

- ・エシカル消費について理解したので、これから実施したい。
- ・特に意識はしていないがマイバックを持ったり環境にやさしい製品を買ったり、自然体で生活すればよい。
- ・エシカル消費という言葉を、このアンケートで初めて知った。これから少しずつ実施したいと思う。
- ・エシカル消費を知らなかった。
- ・横浜野菜はよく買っているが、どこでも売っている訳ではない。自治体として、地産地消の考えに協力するよう、企業に働きかけるべき。 など

Q14 エシカル消費についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

(抜粋・要約)

- ・子ども達に対して学校の授業で積極的に取り上げてほしい。事例の紹介やエシカル消費に携わっている人の話も参考になると思う。
- ・神奈川県「県」として広報するだけではなく、「市」や「区」といった地域の住民に寄り添ってPRをしていき、一人でも多くの方々に向けて発信して「エシカル消費」について、周知をしていくことが大切だと考える。
- ・必要な分だけ買う、必要かどうかよく考えてから買う、など意識している。フルタイムで働いていた数年前までは時間をお金で買う感じだった。特にSDGsが提唱されてから世の中が急速に動き出しており、自分を含め現時点で大人の世代には馴染みが薄く、取ってつけた感があると思うので、メディアでの積極的な情報提供（資源ごみ回収の意義なども含めて）を期待している。
- ・エシカル消費を意識することによって、環境に配慮した社会貢献ができるもの

だと思う。ひとりひとりが、意識して行動できるよう、メディアやインターネット、SNSでの発信で、周知できるようにしたほうが良いと思う。

- ・輸入に頼る日本なので、海外から来る商品について安全性を保つ取り組みをしてほしい。オーガニックラベルは大変助かる。

- ・SDGsに続き、エシカル消費という分かりにくい表現を使用していることに反対。英語やカタカナに頼り、新しい取り組みを行う事にインパクトを与える方法は常套手段だが、ついていくのが大変。高齢者社会と言いながら高齢者に分かりにくい事をしている、ということ意識してほしい。

- ・無意識にエシカル消費をしていると思うが、せっかくなので周知してほしい。

- ・エシカル消費という言葉はよく聞いていたが、意味は理解していなかった。日本語で言うと倫理的な消費というようだが、もっとわかりやすい言葉があればいいと思う。「思いやり消費」などはどうか。

- ・環境に配慮したものだからと言って、普段のものよりも価格が高くなるのは、単に努力が足りなかったり、開発技術がなかったりすることを意味しているように感じてしまう。同じ価格であれば、エシカル消費のアイテムを購入する人は増えると思うが、価格が上がると普及はできないと思う。

- ・エシカル消費という言葉は知らなくても、行動意識は持っていると思う。

- ・良いことってどうしても値段が高い。同じ物なら値段の安い方を選んでしまうところはある。

- ・社会問題を解決するには、費用がかかるのだということがわかった。生活に余裕のある方々は社会全体に目を向けて、できる範囲で協力するのが理想だと思っている。

- ・エシカル製品は高価になりがちで、競争力を有しにくい。エシカルメーカーへの税制優遇策強化、エシカル製品販売の公的補助金策などが必要ではないか。また、反社会的な業者のマーケットからの撤退を促すことも肝要。

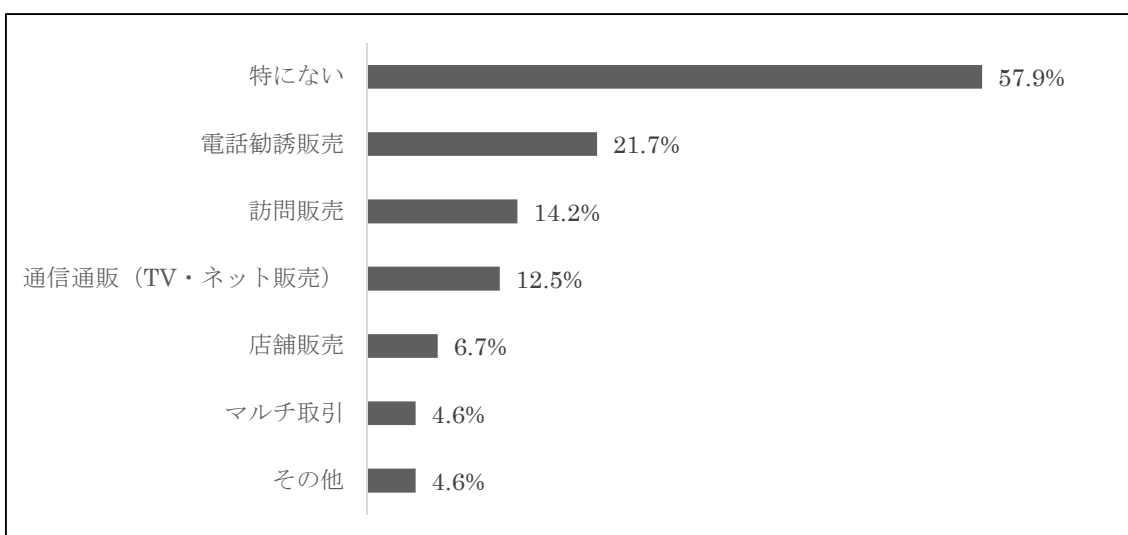
- ・値段が高くなりがちで買いづらい。

- ・言葉は聞いたことがあったが内容までは知らなかった。アピールが必要だと思う。 など

2 訪問販売等の消費者トラブルについて

Q15	実際に経験したことがある消費者トラブルとして、どのようなことがありますか。 (複数回答可)
-----	--

・「特にない」が約6割、次いで「電話勧誘販売」が約2割

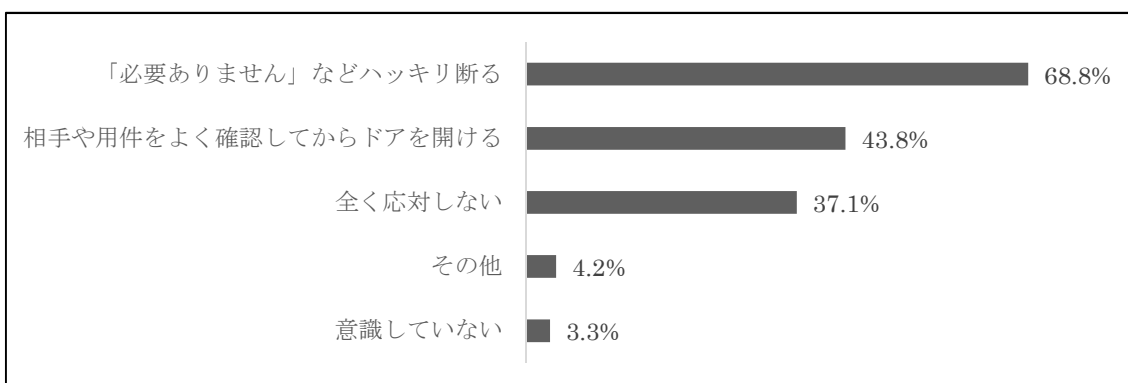


○「その他」の主な回答 (抜粋・要約)

- ・頼んでいない商品が届いた。
- ・「本・皿・靴・バック・ひな人形・五月人形や鎧兜・着物を買取りたい」と言
って訪問して来るが、実態は貴金属の買取りだった。
- ・引っ越し入居時のクリーニング不備、引っ越し退去時の敷金など

Q16	悪質な訪問販売の被害を受けないよう、日ごろから意識していることを選択して ください。(複数回答可)
-----	--

・「『必要ありませんなどハッキリ断る』」が約7割で最多



○「その他」の主な回答 (抜粋・要約)

- ・インターホンの近く、郵便ポストなどに「セールスお断り」などと掲示する。
- ・金銭に執着心を持つ。
- ・常時留守番電話にしている。
- ・怪しいと思ったら、ネットで似たような手口がないか調べる。
- ・困った時は警察、消費生活相談窓口、市役所などに相談する。
- ・基本はインターホンでの対応で、身に覚えのない相手の場合はエントランスでオートロックを開錠しない。電話は自動応答にしておりすべて録音対応、身に覚えがない人には返答しない。
- ・電話勧誘があった場合、着信拒否設定をその都度行う。 など

【まとめ】 今回のアンケートを通じ、次のような点が明らかになりました。

○エシカル消費を知っているかたずねたところ、「知っていたし、関心もある」「知っていたが、関心はない」「聞いたことはあったが、意味はよくわからない」と回答した方が合計で約7割であった。

また、エシカル消費をどこで知ったか（聞いたか）たずねたところ、「マスメディア（テレビ、ラジオ、新聞など）」と回答した方が7割以上で最も多く、次いで「インターネットやSNS」が4割以上であった。

○エシカル消費につながる商品、サービスの購入を検討したいと思うかたずねたところ、「とても思う」「少し思う」と回答した方が合計で8割以上であった。

○買い物時にマイバッグ（エコバッグ）を携帯しているかたずねたところ、「携帯している」と回答した方が9割以上であった。

○エシカル消費を促進するために、どのような取組みが効果的かたずねたところ、「ショッピングセンターなどでの啓発イベント」が6割以上で最も多く、次いで「インターネットやSNSでの啓発」が5割以上であった。

○実際に消費者トラブルを経験したことがあるかたずねたところ、「特になし」と回答した方が約6割だった。また、「電話勧誘販売」のトラブルを経験した方が約2割であった。

○悪質な訪問販売の被害を受けないよう、日ごろから意識していることをたずねたところ、「『必要ありません』などハッキリ断る」と回答した方が約7割で最も多く、次いで「相手や用件をよく確認してからドアを開ける」が4割以上であった。

今後、アンケート結果を踏まえ、消費者教育の推進や県民への的確な情報提供などに取り組んでまいります。